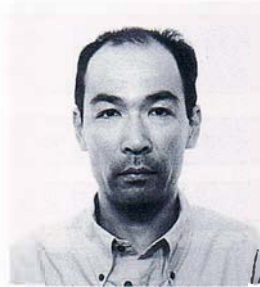


## 自己紹介

数理分子生命理学専攻 瀬野裕美



奈良女子大学大学院人間文化研究科複合領域科学専攻・理学部情報科学科より、平成12年4月1日付けで理学研究科数理分子生命理学専攻数理計算理学講座複雑系数理学研究室の助教授に転任しました。8年ほど前

から3年弱の間、広島大学理学部留学生担当専門教官・数学科講師でお世話になっておりましたので、5年半ぶりに東広島にもどってきたという感じではありますが、なにしろこの5年余りでの東広島（キャンパスの様子も含めて広島大学自体の変化も！）の変わり様は驚くほどですし、このたび私が着任した専攻も全く新しいもの（のはず！）ですから、以前とはいろいろな面での違いを痛感し、今はまさに新しい生活へ順応中というところではあります。実は、8年ほど前にも理学部通信（1992.7.10 発行 No.154）に自己紹介を書かせていただきましたし、未だ残存している過去の homepage <http://gi.ics.nara-wu.ac.jp/GI/intro/seno> もあります。私の過去の履歴など余分な自己紹介については、それらも参照（！）していただくことにして、この5年半ほど経た心境で改まったところを書かせていただきます。

今、専門は？と尋ねられた場合には、生物数理・数理生物学と答えています。私が焦点をおいているのは、如何なる生物学的問題を取り上げるか、如何に数理モデルとして構成するか、如何なる数理的解析を行なうか、数理的結果を如何に生物学的議論として取り上げるか、という、生物現象の数理モデリングの側面です。これまで、分断された環境内における生物個体群動態、時間的に不連続な生態学的摂動の生物個体群動態に対する効果、生物個体群の群れ形成・群れ構造、生物群集の多様性、動物行動の適応性などの生物学のトピック、血管系構造、血液循環調節、免疫応答、遺伝性疾患遺伝、病気感染過程や、カニの鉗脚再生とその左右不相称性、葉脈形成過程とそのパターンなどの医学・生理学のトピックの数理モデル研究を enjoy してきました。これからもこの学際的の極みを味わっていきたいと思っています。

東広島の地でのこれからの新しい広島大学の変化が如何様なものになるのか、それに巻き込まれながらも

それを楽しみながら（！？）、自分の思うところの学  
究・教育を目指していきたいと思っています。